



大阪歴史博物館
大阪市中央区大手前4-1-32

安倍文殊院へ初詣に行くのが恒例でした。正直をいうと、阿倍仲麻呂がその村の出生であるということは知りませんでした。OSKの近鉄時代に、陰陽師で知られる安倍晴明のミュージカルをやらせていただいて、安倍晴明のゆかりの地だということは知っていましたが、阿倍仲麻呂のことは今回のことで勉強させていただきました。命がけで唐へ渡り国交を深めた、すごい人なんだって。

堀井 その阿倍仲麻呂らが乗った遣唐使船が、私たちがいる難波(なにわ)から唐に向けて出港しました。このことを思えば、いま奈良県が平城遷都1300年を迎えています。それは奈良だけの歴史ではないんですね。大阪府や奈良県というのは、明治以降の行政区画で分けられた、たかだか百数十年のこと。淀川水系や大和川水系で結ばれた難波と大和は、古代国家の形成過程ではほとんどひとつの地域として見なされていたと思います。平城京の時代にも難波宮(なにわのみや)が置かれ、難波は日本の政治の中心として、また貿易、防衛、外交の拠点でもあり

ました。つまり私たちはいま、平城遷都1300年を契機として、大阪や奈良といった行政域を越え、時空をつらぬく古代ロマンを共有する深いつながりを感じているわけです。



です。

桜花 博物館の上から、石の大きな土台が見えますね。

脇田 そこが後期難波宮の大極殿跡です。都会の真ん中でこうした遺跡が残っているのは、ここが旧陸軍第八連隊の練兵場だったからです。

堀井 だからビルで埋め尽されることがなかった。

脇田 そうです。大正初期、ここに陸軍の倉庫を建設しようとしたとき、当時陸軍省の技師だった置塩 章(おしおあきら)という建築家はその地下から古瓦を掘り出しました。この人はたいそう歴史好きな人で、その古瓦が難波宮の存在に関係するも

のではないかと思って大事にとっておられました。後年、それを大阪市立大学教授の山根徳太郎という考古学者に見せたことがきっかけで、昭和36年、山根先生によって難波宮跡が発掘され、難波宮の存在が証明されました。とはいえ、調査を始められた当初は関心を向ける人が少なく、「あんなところから宮跡が出るはずがない」「あんなのは難波宮ではなくて山根宮だ」などと、さんざん悪口を言われていました。

桜花 それは大層ご苦労なされたことでしょう。

脇田 しかし山根先生は断固として持論を曲げられませんでした。発掘調査のときは奥様が作られたお弁当持参でね。「喫茶店でコーヒーを飲む金があるなら、それを調査費に回す」とおっしゃって、ときには御堂筋のイチヨウの木の下でお弁当を食べたりもされていました。そうして遺跡が出始めた2月の風の強い日、私は遺跡近くのビルの屋上で、1時間にわたって山根先生から説明を受けました。あまりの寒さに閉口しましたが、先生は寒さなど気にもかけない。それぐらいの情熱があったからこそ、大遺跡を発掘することができたんでしょうね。

堀井 平城宮跡の整備も、最初は熱意ある個人の保存運動からはじまりました。そうして戦後、文化庁が多大な国家予算



後期難波宮の基壇跡
(大阪歴史博物館10階から
難波宮跡公園を臨む)